

事前アンケート結果（まとめ）

	ご意見
<p>全体を通して</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・総合計画における基本構想と基本計画、実施計画相互の関係や人権、福祉、教育等に関する個別計画や関連事業との連携などについての検討の方向性についても、社会情勢の変化に即応した修正が行われており、特段の問題は無いと感じた。 ・「施策の進捗をはかる指標」の内、多くが活動指標（アウトプット指標）に止まっており、成果をはかる成果指標（アウトカム指標）の設定が不十分であるように感じた。施策の適切な進捗管理と更なる高みを目指す次のゴール設定のためには KPI の設定が重要である。「修正のポイント」にも既に挙げておられるところではあるが、指標設定の在り方についての議論が必要であると思う。 ・安心で安全な市民の暮らしを守り、増進するうえで、基礎自治体である市の役割が非常に大きくなっているため、市の施策に期待している。
<p>第 1 章 ともに支え合う 「共生のまち やわた」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人居住者に関しては、コミュニケーションの場所を設けて八幡市に永住してもらえる位に接点をつくるのが大事ではないか。 ・「性自認」という言葉について、前後の文脈から言いたいことは分かるが、用語解説などの工夫があればよいと感じた。 ・障がい者の「親亡き後」については、その家庭について納得いくまで面談をして、兄弟や親類の有無などを把握する必要があると思うが、時間がかかることや拒否されるケースなどの課題があると考えられる。 ・検討の方向はおおむね妥当と感じた。固定的に「障がい」を捉えがちな「医学モデル」ではなく、障がいを持つ方々に残された力を最大限に発揮していただき、新たな可能性に道を開き、社会参加を促すよう支援する「社会モデル」への転換が進められている世界の動きを反映したものと評価できる。 ・自治組織団体への加入については、賃貸の方も多く、いずれ引っ越す予定であることから加入されないことが多い。 ・リカレント教育について、推進講座の受講者数グラフ（p 15）のみの記述内容だが、前向きな学びなおしが社会の活力増進に繋がるのではないか。
<p>第 2 章 子どもが輝く 「未来のまち やわた」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ヤングケアラー等、現在社会問題化している課題を取り上げた内容となっており、検討の方向性はおおむね妥当であると感じた。 ・妊娠・出産・育児サポートの主な取組と方向性にある「貧困やヤングケアラー等の家庭問題」（p 20）について、引きこもり不登校の問題も追加してはどうか。 ・就学前教育・保育の充実の主な取組と方向性（p 22）について、「待機児童 0 を継続的に実現するとともに、八幡市が子育てのしやすく、就学前の

	<p>児童が増加し、住みたい街の上位になることを目指す。」と追記してはどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・待機児童 0 は実現しているので、表は不要で、言葉だけの表現で良いのではないか。 ・GIGA スクールの取組みが全国で進められているが、端末機器の生徒一人一台の確保に止まらず、ソフト面の指導体制の整備や指導者の養成がより重要になってきているように思う。 ・GIGA スクールでの端末利用の具体的な内容記述が望ましい。 ・有都小学校は生徒数が少なく、帰宅する子供たちが少ないため、犯罪などが心配。美濃山地区等から無料バス等を出すなど、生徒数を増やせないか。 ・コロナ禍により家でゲームをする時間が増えたため、学力の低下が心配。
<p style="text-align: center;">第 3 章</p> <p style="text-align: center;">誰もが「健康」で 「幸せ」な「健幸のまち やわた」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・検診などは、コロナ禍により病院へ行くのをためらう人がいると思われるため、受診期間をもっと長く出来ないか。 ・健康づくり習慣の定着促進の主な取組と方向性（p 31）へ「健康づくりに関する情報がロコミで伝達される健幸アンバサダー」に関する取組を追加してはどうか。 ・健康づくり習慣の定着促進の指標（p 32）について、コロナ蔓延時期等の影響はあるのか。 ・橋本駅前の整備について「進めている」との記述があるが（p 34）、工事が中途半端な印象で現時点では見栄えも悪く、とても「歩きたくなる道路」とは程遠い。 ・公共施設の芝生化は、暑さ対策などには良さそうだが、手入れをシルバー人材センター等に依頼していて費用がかさんでいる印象。 ・医療基盤の充実については、コロナ禍で診療所等も様々な苦労があったと思うが、「かかりつけ医」でも、鼻水の症状があるだけで診察拒否をされたりした。他院では診てもらえたが、各診療所での対応の違いに戸惑うことが多々あったので、市や保健所で統一しなければ「健幸」は達成できないと思う。 ・高齢化が進み、人生 100 年時代と言われるようになって久しいが、健康寿命を延ばすことこそが重要との意識は今後ますます高まると思われる。地域において、高齢者が健康で豊かな時を過ごしながら、終末を迎えることができるよう「地域包括ケアシステム」の導入が進められてきた。誰もが齢を重ね、死を迎えるため、安心して健康で暮らせるコミュニティの確立は最重要の課題と言える。市民、住民自治組織、医療機関、行政等の地域社会における各主体の連携と協働の体制づくり、さらには市民の意識変革が必要であると考え。その観点からも、検討の方向性は妥当と感じた。